事例No.	3215
公表年度	R6
団体の属性	その他
団体名	特定非営利活動法人 郷の元気

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・関係人口

事例種類	地域振興

事例内容・タイトル

農山漁村地域の中間支援を行ない郷に元気を創ります

出典

令和６年度優良事例表彰

全国過疎地域連盟会長賞

徳島県上勝町（かみかつちょう）

特定非営利活動法人 郷（さと）の元気

農山漁村地域の中間支援を行ない郷に元気を創ります



棚田オーナー制田植え（樫原の棚田、小松島西高勝浦校と連携）

審査講評

評価のポイント

▶「専門家こそ、田舎へ行け」という先人の言葉を胸に抱く濃密なヨソモノである専門家が「樫原の棚田及び農村景観」（重要文化的景観）の保全を草の根活動をしつつ俯瞰し、時には戦略を練り、時には適切な助言をし、実験・調整しながら牽引していく。棚田のめぐみ感動ビジネス構築を目指し、専門人材の地域への支援（コミュニティデザイン）の理想的な在り方。

審査委員のコメント

高い志の継続した牽引と支援

健全な風景は健全な暮らしと生業の表出であり、景観はそこに暮らす方の生きざまの集大成であることを体現する「樫原の棚田及び農村景観」（重要文化的景観）は、多くの人を感動させる。約200年にわたり水田・家屋・道等の土地利用の変化がない風景を保全するには、産業構造や食文化の変化、下げ止まらない過疎化を背景にすると、交流人口の増加が不可欠。ヤマビコ・アート・教育・研究など、同様な課題を持つ地域との交流・メタバースなどを活用した新たな視点での交流を実施し、上勝町で行われている他の様々な組織の活動や事業をつないできた。

その集大成として価値観を共有する新たな照準を生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）とする姿は志し高く、200年の間に日本人が何処かに置いてきてしまった暮らしや思考を取り戻す一助になると期待・応援している。このような中間支援組織の初期活動を支援してくことも、国土保全を加速させる一つである。今後は、棚田オーナー制度はサブリースの可能性も模索されると、関係人口の増加や維持管理にコミットできる可能性が出てくるのではないか。



取組の概要

郷の元気は、農山漁村の中間支援を活動の骨格として2005年に上勝町で設立した。「郷土」「故郷」を元気な姿で、後世に伝承していく活動を行っている。

具体活動として、複数の活動組織の設立支援、集落組織とした棚田オーナー制の創設運営、地域棚田協議会と連携した棚田電動キックボード、棚田ライトアップのほか、近年、遊休農地を活用した棚田キャンプの創設、子供食堂と連携した食育棚田交流活動などを展開している。



早乙女田植え（樫原の棚田、集落組織と連携）



棚田電動キックボード（田野々の棚田、棚田未来づくり協議会と連携）



親子の棚田体験交流（中津賀地区、徳島市の子供食堂と連携）



18年つづく集落組織との連携会議（樫原の棚田村）



澤田 俊明さん
［特定非営利活動法人 郷の元気 代表理事］



佐藤 幸好さん
［特定非営利活動法人 郷の元気 副代表理事］



大山 沙代美さん
［特定非営利活動法人 郷の元気 企画担当］

取組のKEY PLAYER

あきらめない!

市町村合併による行政組織消滅の危機感から2005年に設立しました。継続活動の中で、集落組織や連携組織との信頼関係が構築できていることは大きな財産です。

一方で、これらの中間支援活動や協働構築活動は、時間もかかり見えにくい活動の特性から、継続的な活動支援者や活動資金の確保に苦労しています。

本組織での活動対象の地域集落組織の高齢化等による遊休棚田農地が一気に増加しています。農地の遊休化を逆に交流のチャンスととらえ、棚田キャンプ等の環境保全型の棚田感動ビジネスを展開していきたいと考えています。

審査による現地調査でのヒアリング対象者

澤田 俊明さん［特定非営利活動法人 郷の元気 代表理事］ ／ **片桐 悠**さん［上勝町地域おこし協力隊］

徳島県上勝町（かみかつちょう）

団体名……特定非営利活動法人 郷の元気
所在地……〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町大字福原字川北30番地
連絡先……TEL：0885-46-0676
E-mail：satonogenki@kkcatv.jp
URL：https://01satonogennki.amebaownd.com/



自治体・団体の詳細はこちらからご覧いただけます。